

5月 園だより

<教育目標> ・元気に遊ぶ子ども
・豊かに感じる子ども
・考え工夫する子ども

R6. 4. 30 文京区立本駒込幼稚園



成長の実感

園長 藤田 智子

入園・進級からもうすぐ1か月が経とうとしています。

年少ちゅうりっぷ組の子どもたちは、保護者の方と離れて過ごすことにも少しずつ慣れ、それに従って担任の先生との心の距離が近付いているのを感じます。「先生と一緒に遊ぶと楽しい」「困ったことがあったら先生のところに行こう」と思えることで、安心して幼稚園で過ごせるようになっていってほしいと思います。

年中組では、新しい先生と過ごす新しい保育室での生活に慣れ始め、自分のしたい遊びを楽しんだり、友達との触れ合いを楽しんだりしている姿が見られます。学級のみなどで集まると先生が楽しいゲームやリズム遊び、絵本の読み聞かせをしてくれることを楽しみにし、喜んで参加しています。

年長組では、生活面の自立に向けた取り組みや当番活動など、『年長組としてすべきこと』を行う中で、年長児としての意識が芽生えてきました。そして、巧技台や大型積み木などを使った遊びの場作りや、先週年長組だけで行った六義園への遠足など、『年長組だからできること』を楽しむ中で、年長組でのこれからの生活へのさらなる期待が高まってきました。

短い期間ではありましたが、学年始めのこの時期の子どもたちの成長は、とても大きいことを実感します。

子どもたち自身にもこのような自らの成長を実感してほしいと思い、4月の年中組・年長組の誕生会で、『おおきくなるっていうことは』（中川ひろたか・文/村上康成・絵）のお話の読み聞かせをしました。誕生日を迎え歳が一つ大きくなることは子どもたちにとって“おおきくなった”という実感や喜びがもてる特別嬉しい出来事ですが、それだけではなく、日々の園生活の中にも自分の成長が感じられる出来事がたくさんあります。このお話には、『おおきくなるっていうことは ようふくがちいさくなるってこと』『おおきくなるっていうことは あんまりなかないってこと』『おおきくなるっていうことは おもしろいことがどんどんみつけれられるってこと』『おおきくなるってことは ちいさなひとにやさしくなれるってこと』など、子どもたちが身近に感じられる“おおきくなるっていうこと”が出てきます。大きな声であいさつができるようになった、自分の持ち物を自分で準備することができるようになった、自分より小さいクラスの子どもたちにやさしく声を掛けられるようになったなど、日々の生活を振り返りそれぞれが自分の成長を実感する機会をもつことは、自分に自信をもつことにつながっていきます。自分の成長に意識を向けながら、それぞれの子どもたちがいろいろなことに挑戦していってほしいと思います。そして、そのような子どもたちの姿をよく見て、よく褒め、あたたかく受け止めながら自己肯定感を高め、意欲的な幼児の育成に努めていきたいと思います。子どもたちの変化・成長を保護者や地域の皆様と共に喜び合い、あたたかい雰囲気の中で子どもたちを育てていける幼稚園でありたいと思います。



元気に大きくなあれ！